



小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版
令和元年 7月31日 No.13

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.84)
十日町市教育委員会学校教育課



中里中学校区いじめ見逃しゼロ集会 ※ P 7 で説明

めざすものとそのプロセス ～新学習指導要領完全実施に向けて～

学校教育課長 山本平生

ご承知のとおり小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が完全実施となります。各学校では、各教科等の指導計画や校時表等を見直し、学校の教育課程をどのようにしていくかといった検討に入っていることと思います。

今回の学習指導要領の大きなキーワードの一つは、言うまでもなく「主体的・対話的で深い学び」です。各学校の研究テーマやそれに基づく学習指導案にも、この言葉はたくさん用いられています。新しい学習指導要領がめざすものである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業に、対話的な学習活動が意図的に組み入れられていたり、深い学びの成立した姿を描いて授業が行われたりしており、各学校における真摯な取組には、頭が下がる思いです。

一方で、学習形態としての「話し合い」「対話」といった「活動」が重視され、その活動が「何をめざして」「どのようなプロセス」で行われるべきなのかについての言及が少ないことが少し気になります。「話し合う活動」があったから、「対話的な学習が成立した」とはならないと思うからです。

コミュニケーションが苦手な子をどうやって対話の場に連れて行くか、なかなか自分で行動を決められない子にどうやって自己決定させていくか、この教科における「深い学び」をどう描けばよいか。今の児童生徒の実情と、学習内容との関連を見極め、「主体的・対話的で深い学び」に誘っていくために、どのようなプロセスを経ていくべきかを考えていくことが、今とても大切です。

加えて、小中一貫教育の観点から、小学校、中学校それぞれの学習指導要領が何をめざしているかを双方が再度確認し、その実現へのプロセスを共有することも、私たち十日町市の小中学校では大切な意味をもちます。

小中一貫教育

自己有用感を高める取組の一例として

芸術表現活動と省察活動の授業(中里中学校)から

今年度、中里中学校では青山学院大学社会情報部 荻宿俊文教授が提案・研究されているアートを活用した教育「芸術表現活動と省察活動による教育プログラム」に取り組んでいます。7月8日(月)・9日(火)には2年生が行いました。

詳しい内容は、8月2日(金)に行われる「小中一貫教育 中学校区合同教職員研修会」のご講演で説明があるかと思いますが、児童生徒の自己有用感を高める上でヒントになるものがあると考えています。

このプログラムによる「アートによる学び」は、次のような活動です。

芸術表現体験活動

自分がやったこと、感じたこと、気づいたこと

+

省察活動

自分のやったことを見直して意味づける

=

資質・能力の発見、定着

それまでと違う自分と出会う

芸術表現は、個人差を認めているので、自分の納得感や表現の独自性にこだわってみる。

省察は、自分が即興的、協同的に行った活動を思い出し、これまでの経験やこれからの目標と比較しながら意味づける。

芸術表現体験活動と省察を通して、キャリア教育で最重要とされている資質・能力の発見、定着に繋げていく。

説明：荻宿教授の資料から

■ 授業の実際(主な様子)

<芸術表現体験活動> 2時間

- プロの演出家が講師として指導。活動のルール「伝え合う」「助け合う」「演じ合う」の3つを大切にする。ルールを体感するクイズや「イス取り鬼ごっこ」「ゾンビ」のゲームを各10分程度実施。
- 機械的に割り当てた男女一緒の3・4人の班で演劇活動。

- シナリオは、すでに作られた3人の配役で、セリフの3箇所だけ班で自由に考える。意図的に違う班のシナリオを使って、約20分の練習で演じさせる。

- 全ての班が発表し、講師から班ごとにプロの目で見えた講評を受ける。
- 最後にカードにその日の学びを記入し、振り返りを行う。

※ 生徒は、班毎にシナリオにふさわしい場所を選び、限られた練習時間の中で仕上げていました。その日に作った班でしたが互いに意見を出し合い、演技しながら変更を加え、笑顔を見せながら取り組んでいました。講師の講評では、それぞれの良さに気づき、笑みを浮かべ納得して聞いていました。(上の写真)

<省察活動> 2時間

- 荻宿教授から前日の演劇活動について、映像と生徒の感想を交えながら取組を振り返る説明。
- 振り返りを基に、班ごとに自分たちの班の良さを見つける話し合いを実施。
- 今度は自分たちが作ったシナリオを使って、自分たちの班の良さを表現する演劇を約20分練習し、班ごとに発表し合う。(右の写真)
- 荻宿教授からの話を受け、その日の学びをカードに記入し、振り返りを行う。

※ 生徒は、前日に作ったシナリオを変えたり、昨日の班との違いを考えたりしながら演じ、班の仲間同士の距離がより近くなった感じがしました。

■ 感想

- ・ 演劇にうまい下手を求めず、生徒の自由な考えを尊重するところが、生徒の主体的に取り組む姿につながっていたように感じました。
- ・ 指導者は生徒に与えた課題以外に、指示を出さず任せ、生徒同士で解決するところまでやらせることで、生徒間の距離が縮まり、絆づくりにつながっている感じがしました。
- ・ 活動する中で緊張感がほぐれ生徒の笑顔がたくさん見られたことに感動しました。
- ・ 実際の授業では、プロの講師を招いてはできません。しかし、活動の組み方や振り返りの仕方に、居場所づくり、絆づくりのヒントがあるように感じました。

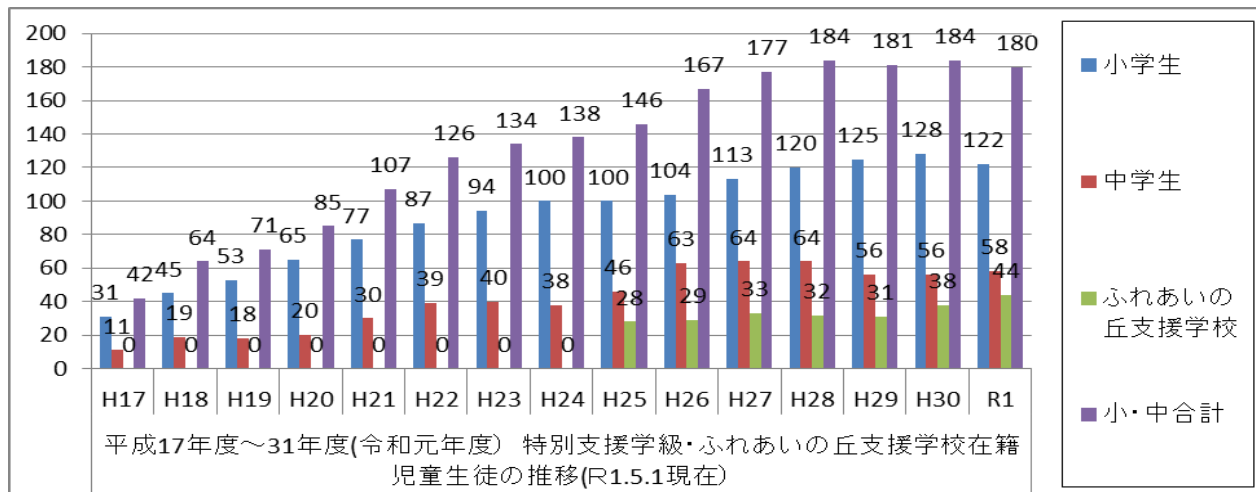


教育相談班より

～十日町市の児童生徒の幸せな学校生活 ・適切な教育環境整備を目指して～

■十日町市の「特別支援教育の充実」に向けた取組

十日町市の教育課題「学力向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」に向け、今年度も取組が進み出しました。その一つである「特別支援教育の充実」ですが、なぜ、重要課題なのでしょう。



それは、上記グラフのとおり特別な支援を必要とする子どもが年々増加しているためです。今年度、特別支援学級在籍児童生徒総数が減っているようですが、市内児童生徒総数の減少により、割合は年々増加の一途です。特別支援学校の児童生徒数も増加しています。

また、グラフにはありませんが、通常の学級においても、特別な支援を必要とする児童生徒も増えてきています。そういった困り感をもった子ども一人一人に適切な支援を提供するためには、指導する教師の指導力の向上や各関係機関によるそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援体制構築が不可欠です。そのため、市教育委員会では、以下の通り、様々な取組を展開してきました。

- 1) 4月15日(月) 市就学支援説明会 全23園 管理職・年長担当者対象
- 2) 5月13日(月) 特別支援教育研修講座① 講師:小網輝夫様(ふれあいの丘支援学校校長)
- 3) 5月27日(月) 特別支援教育推進チーム全体会 関係機関連携によるチーム会議
※十日町小通級指導教室、ふれあいの丘支援学校、発達支援センター、市教育委員会学校教育課・市教育センターによるチーム
- 4) 6月12日(水) 特別支援教育研修講座② 講師:小網輝夫様(ふれあいの丘支援学校校長)
- 5) 7月5日(金) 特別支援教育公開研修講座 講師:加藤哲文様(上越教育大学教職大学院教授)
- 6) 7月16日(火) 市特別支援教育連絡協議会 関係機関代表者による会議

8月後半から、研修や関係機関連携がまた動き出します。今後も教育課題「特別支援教育の充実」に向け、努力していきます。

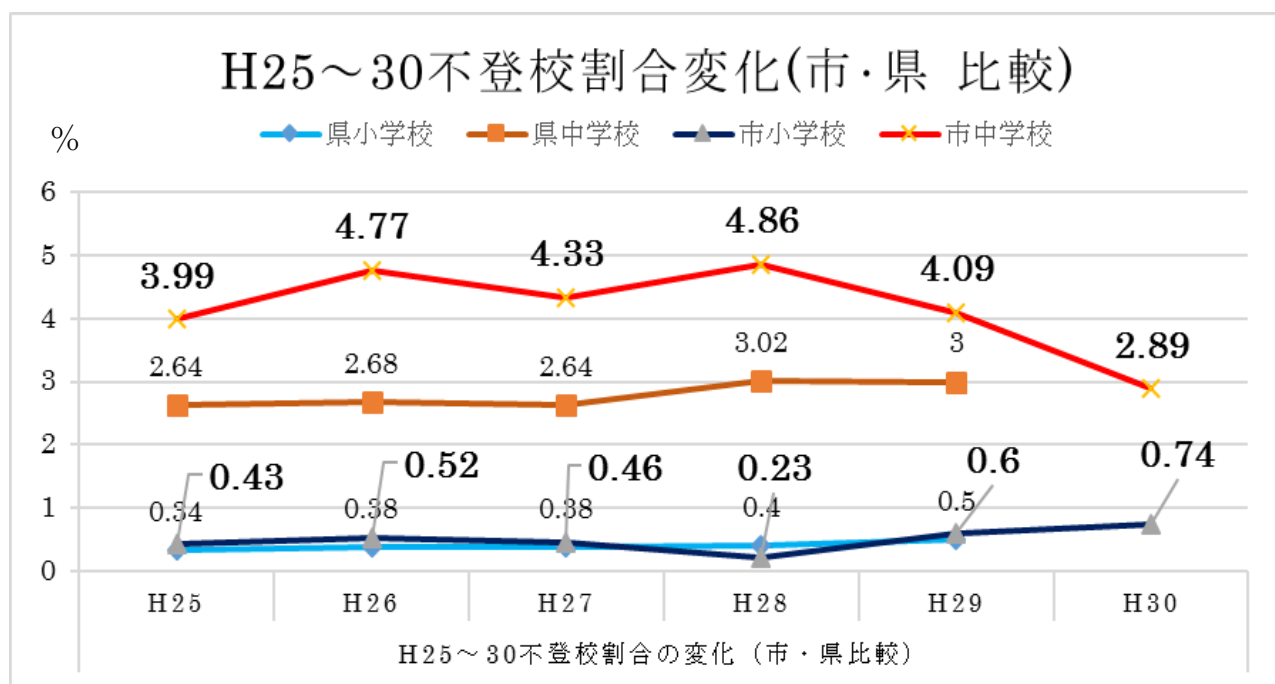
■第1回不登校対策研修会 報告

会場：川西庁舎・第1研修室

7月4日（木）午後2時30分より、川西庁舎4階第1研修室において、各学校の生徒指導・生活指導担当者を対象にした『不登校対策研修会』を開催しました。前半は、丸山指導主事による「十日町市の不登校対策の取組」と題したプレゼンテーションによる講話、そして、後半は不登校対策専任教員とともに学校訪問指導を行ってきた林囑託指導主事による講話とグループ協議を行いました。グループ協議では、不登校になった児童生徒への対応ではなく、新規不登校者を出さないために数値で測れない能力「否認知能力」（意欲・忍耐力・人間関係能力など）を、学校教育の中でどのような場でどのように高めるかについて、4～5人のグループごとに付箋紙に記入・塗布しながら協議・深化していきました。

参会者からは、「不登校対策の視点として、否認知能力を高めることの大切さが認識できた」「他校の不登校への取組を知ることができ、大変ありがたかった」等がありました。

なお、ここ3年で不登校児童生徒数の割合は、小学校でやや増加傾向、中学校で減少傾向、そして、全体的に減少傾向にあります。（下記グラフ参照）



不登校は様々な要因が原因となって起こることが多くありますが、保護者と学校、関係機関が連携し合って取り組んでいくことが大切です。市教育委員会では『不登校対応のためのマニュアル』を発行（今年度、改訂版を出します）して、平準化を目指しています。また、不登校対策研修の充実にも力を入れていきます。

学習指導班より

エキスパート教員研修会② 報告

～ 6/5(水)松代中学校:中町 初美教諭 ～

今年度のエキスパート教員である、松代中学校：中町初美教諭による1回目の研修会が行われました。今回は、上越教育大学の出前講座を兼ね、上野正人教授をお招きしての合唱指導会でした。当日は、郡市の音楽主任の先生を中心に、28名の方からご参加いただきました。



冒頭から、松代中学校全校生徒による合唱のパワーに圧倒されました。研修会后、上野教授もおっしゃっていま

ましたが、まさに「コンクールに参加できる」レベルなのです！それがさらに、上野教授のご指導により、みるみるクオリティを上げていきます。生徒も、リアルタイムで良くなっていることを実感し、さらに向上させようとする好循環が生まれていました。

松代中の合唱は、伝統として積み上げてきた部分もあるはずですが、それを支えているのはまぎれもなく、中町教諭による日々の指導です。

また、松代中1～3年の全生徒が「もっと合唱をよくしたい」と心を一つにし、歌声を練り上げていく姿は、「自己有用感」を高めようとする市の取組を具現化しているものと感じました。その点からすると、音楽主任の先生や音楽にかかわる先生方だけでなく、より多くの先生方にご覧いただきたいと感じました。

中町教諭によるエキスパート教員研修会の2回目は、9月19日(木)に予定されています。次回は、より一層多くの皆様からご参加いただけることを願っています。

【アンケートより】

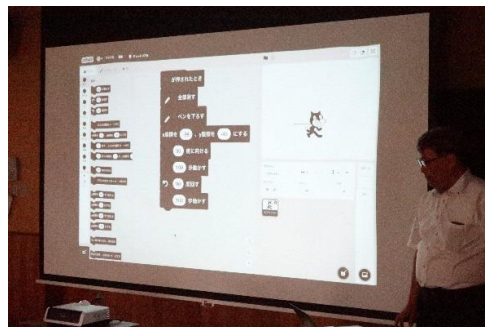
- ★参考になったこと、すべてです。松代中の生徒さん、すばらしいです！
- ★ア・イ・ウ・エ・オ、それぞれの母音の響きの特徴をとらえた発声練習の仕方が非常に参考になりました。(例：アは音程がとりにくく、イは明瞭になる等)発声練習では、音程よりスピード感が大事であること。ほとんど休みなく(座ることなく)歌い続け、真剣に学ぶ中学生の姿に感動しました。日頃のご指導の積み重ねのすばらしさと思いました。
- ★息のスピードを保つために、たたみかけるような発声練習が効果的だということがよく分かりました。手拍子を打ちながら歌うことで、縦の線をそろえる意識が付き、自分が違うとか、どのパートが速いとか分かる。講師の先生をお招きしての授業参観は、とても参考になります。中学生の真剣な顔と素直な歌声にとっても感動し、心洗われる思いでした。
- ★発声の仕方、言葉のリズム、音程の取り方、たくさん実践したいことがあり、本当に勉強になりました。みるみる子どもたちの歌が変わり、終始楽しそうに歌う子どもたちの表情がよかったです。

■プログラミング教育研修 報告

～6/14(金)上越教育大学 大森 康正 教授～

千手小学校を会場に、初の企画である「プログラミング教育研修」の1回目が行われました。今回の主な内容は、①プログラミング教育の概要、②フリーソフト「Scratch (スクラッチ)」の基本操作演習の2つでした。

小学校に新たに導入される「プログラミング教育」ですが、「私はパソコンが苦手だから、プログラミング教育なんてできない…」と思われている方はいませんか？ プログラミング教育とは、「プログラミング的思考力」を育てる教育です。「プログラミング的思考」の定義とは、



自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらよいか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

です。ちなみに、パソコンなどのICT機器を使わずに行うプログラミング学習を「アンプラグド（プラグにつながらない）型」学習と呼びます。教室でじっと座って学習するのが苦手な子でも、ICT機器を使った学習が大好きだという子が見られます。こうした子どもたちに自己有用感をもたせるための、一つのツールになる可能性を秘めていると言えます。

来年度使用する教科書には各社とも、5年の算数「正多角形と円」の学習で、パソコンソフトを使っての学習が位置付けられています。このほとんどで活用されているのが「Scratch (スクラッチ)」です。当日は大森先生から、基本的な操作を丁寧にご指導いただきました。このとき使用した教材は、市のサーバーに保存してありますので、校内研修等でいつでもご利用いただけます。遠慮なく、教育センター：渡邊へお問い合わせください。

■外国語活動サポート訪問が始まりました

6/19(水)の松代小を皮切りに、今年度の外国語活動サポート訪問がスタートしました。講師は、小林 豊先生(市教育センター前嘱託指導主事)です。

昨年度は市内小学校18校すべてを訪問しましたが、今年度からA・B年度方式として、2年計画で市内の全小学校を訪問します(今年度は、中条小、飛一小、川治小、吉田小、下条小、馬場小、上野小、田沢小、松代小の9校)。

子どもたちが、英語学習を通して自己有用感を高めることができるよう、現在高学年を担当している方だけでなく、誰もが外国語を指導できるようにする必要があります。小林先生のユーモアを交えながら的確なご指導をお楽しみに！



6月24日(月)吉田中学校区の研修会

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

日程	内容【会場】	備考
8月2日(金)	小中一貫教育 中学校区合同教職員研修会 【段十ろう】	講師：青山学院大学 教授 荻宿俊文 様
8月7日(水)	事務職員研修 【十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・発達支援センター】	講師：市教育センター職員
8月19日(月)	小学生イングリッシュキャンプ 【千手中央コミュニティーセンター】	講師：市教育センター職員、ALT
8月20日(火)	初任者ボランティア体験研修 【特別養護老人ホーム「三好園」】	講師等：三好園職員
8月20日(火)	ティーチャーズイングリッシュキャンプ 【段十ろう】	講師：市教育センター職員、ALT
8月21日(水)	中学生イングリッシュキャンプ 【千手中央コミュニティーセンター】	講師：市教育センター職員、ALT
8月22日(木)	英語・外国語活動授業力養成講座 【情報館】	講師：東京学芸大学 准教授 阿部始子 様
8月23日(金)	特別支援教育研修講座③ 【川西庁舎】	講師：前市教委嘱託指導主事 堀口生雄 様
8月29日(木)	いじめ対策研修会① 【川西庁舎】	講師：中越教育事務所指導主事 結城義則 様
9月5日(木)	エキスパート教員研修【十日町小】	講師：十日町小 西潟浩子教諭
9月10日(火)	第2回 学力向上推進会議 【川西庁舎】	対象：研究主任、学力向上担当者 講師：市教育センター指導主事他
9月19日(木)	エキスパート教員研修 【松代中】	講師：松代中 中町初美教諭
9月	キッズ英語遊び塾 橘小 9月6日(金) 鑑島小 9月13日(金) 吉田小 9月20日(金) 馬場小 9月27日(金)	/
9月	外国語活動サポート訪問 飛渡第一小 9月10日(火) 下条小 9月20日(金)	/

【表紙写真の説明】

中里中学校区では、今年度「いじめ見逃しゼロ集会」を当初は中学校独自に行う予定でしたが、年度途中の見直しにより、小中学校合同で行うことにし、小学校6年生が中学校に集まり行われました。生徒会が中心となり、行動宣言や縦割り班での仲間作り活動が行われました。この他にも委員会活動などでの絆プロジェクトの取組を行い、2学期の「いじめ見逃しゼロ集会」で取組の振り返りを行うとのことです。児童生徒の主体的な取組を通し、いじめを見逃さない意識と絆づくりが深まることを願っています。